



表紙

・10周年を迎えた「生活クラブでんき」再生可能エネルギー100%の電気を全組合員に届けたい。

P2

・次世代へ核廃棄物を押しつけない

P3

・活動報告 「消費材Step Up点検」コーヒー

焙煎ワーカーズ珈琲工房 まめ福の「東ティモールコーヒー」／「消費材Step Up点検」南王陽堂農園の「梅干し」／第19回 GMOフリーゾーン全国集会 in えひめ
・「おおぜいの私」がつくるエスコープ大阪

P4

・W.Co紹介
「ワーカーズ・コレクティブ ふろんと」
・理事会報告 ・おたよりネット ・編集後記

10周年を迎えた「生活クラブでんき」再生可能エネルギー100%の電気を全組合員に届けたい。

2014年10月に私たち生活クラブ連合会は、「(株)生活クラブエナジー」を設立し、2016年6月から「生活クラブでんき」の共同購入を開始しました。今回は、昨年エスコープまつりの「生活クラブでんき」ブースでご協力いただいた、生活クラブエネルギー事業連合事務局長の知野二郎さんに「生活クラブでんき」を立ち上げた当時のことやこれからのことについてお聞きしました。(聞き手:環境担当常務理事 芝本 美紀)



生活クラブエネルギー事業連合事務局長

ちの じろう

知野二郎さん

2つの原発事故をきっかけに

芝本 はじめてエスコープまつりに参加されていかがでしたか。

知野 たくさんの組合員が来場されて活気があり、組合員が元気に活動されている姿を見て感心しました。特に、まつりのテーマを「気候危機」とされたことが印象的でした。組合員だけではなく熱心に話を聞かれる家族の方もおられ、とても有意義でした。気候危機の影響を率直に語る消費材生産者の言葉は、とても説得力のあるものでした。

芝本 私たち生活クラブの組合員がどうしてでんきの共同購入をはじめたのか、思いを共有する機会は大切です。

知野 1986年チェルノブイリ原発事故の放射性物質が、三重県のわたらい茶の茶葉を被ばくさせたことが組合員の思いの中にまずあると思います。その後、1997年生活クラブ北海道の泊原発反対運動そして、生活クラブ北海道の関連団体による日本初市民の共同発電所「市民風車」はまかせ「ちゃん」の建設など、生活クラブはエネルギー政策を実践してきました。2010年には生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉の4単協で活発な組合員討議を元にエネルギー構想をまとめて、生協初の風車を建てることになりました。2011年の東

日本大震災と福島第一原発事故は、図らずも自分たちの構想の正しさを証明することになってしまいました。2012年3月に生活クラブ風車「夢風」(秋田県にかほ市)が稼働しました。

芝本 10年を振り返りいかがですか。

知野 立ち上げ当初は苦労しました。新電力会社の中には撤退をしているところもありますが、生活クラブエナジーは単協に支えられ、現在も事業は安定しています。

芝本 経営の黒字化が予定より早かったと記憶しています。

知野 早くから需給調整業務を内製化し供給と調達の管理ができたことが大きかったと思います。また、再エネ価格の安定ができているのもあります。

安心安全な「生活クラブでんき」

芝本 生活クラブでんきに切り替えて10年ですがトラブルがありません。

知野 日本の送電システムは、すべての小売電気事業者が各エリアの送配電事業者に託送料金を支払って、送配電を委託しているため、安定性は同じです。ライフラインとして条件は同じなのです。発電構成を見てみると、関西の最大手電力会社は、石炭を含む火力発電が半分近くを占め、大手ガス会社は半分以上が天然ガスを使った発電です。天然ガスは日本で自給できる原料ではないですが、再生可能エネルギーは日本で自給できる電気です。

芝本 電気も中身が大事ということですね。組合員が自分の暮らしや子どもたちの先の暮らしを考えた時に、危険な放射能をつかったり、気候危機を悪化させる電気でないのか考え形にしたのが「生活クラブでんき」だと思います。

おおぜいの組合員とこれから今と未来の暮らしをつくっていく

芝本 今後の生活クラブでんきについての思いを教えてください。

知野 4月末現在、1万8895人(エスコープ大阪522人)の契約数です。特に有識者から「再エネの『生活クラブでんき』として期待、評価されている一方、40万人も組合員がいるのだから」と言われることもあります。まずは2万人をめざし契約者を増やしたいです。そして、契約者に100%供給のできる再生可能エネルギー発電所も営農型太陽光発電やPPAなどを通じて増やしていきたいです。近く、長野県で林業従事者の経営するバイオマス発電所から供給が始まります。にかほ市では、景観をよくするため自治会が、風車の下に花を植えてくれたり、合同で消費材を開発したりと交流も盛んにしています。これからも、地域に受け入れられないような発電所の開発はしません。生産者も使用者も見える化のできる電気をめざします。

芝本 エスコープ大阪にも、自給自足の発電所のひとつ長野県野辺山営農ソーラー株式会社からの電気をはじめ、93.7%(4月現在)の再生可能エネルギーで発電した電気を組合員に供給しています。再生可能エネルギーの電気を使うことで、CO2削減をして地球を守る、原発の再稼働をさせないといった活動の一環になっています。エスコープ大阪では、2025年度に年4回生活クラブエネルギー連合から講師をお迎えして「でんき見直し相談会」の開催を予定しています。おおぜいの生活クラブでんきをつかう仲間と再生可能な暮らし方をつくっていきます。

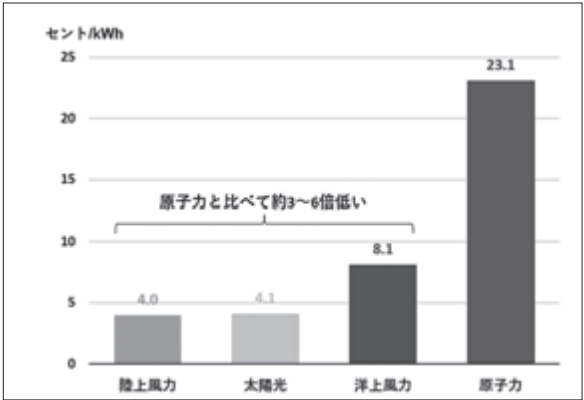
次世代へ核廃棄物を押しつけない

2025年、日本は広島・長崎への原子爆弾投下から80年の節目を迎えます。この歴史的なタイミングで日本が原子力発電所（以下、原発）問題にどのように向き合うべきかを改めて考えることは、単なるエネルギー政策の問題にとどまらず、平和運動の一環としても重要であると思われます。原発の問題点を整理し、持続可能で平和な未来への道を模索したいと思います。

コスト高の原発は核のゴミを増やすばかり

原発は安価という思い込み

原発は「安価で安定したエネルギー」と長年主張されてきましたが、現実とは異なります。建設費用や維持管理費、さらには事故発生時の賠償や廃炉にかかるコストを考慮すると、原発はむしろ高コストなエネルギーです。実際、「東京電力福島第一原発」事故後、原発の安全対策費が増大し、結果として新規建設や既存施設の再稼働が経済的に難しくなっています。加えて原発の燃料となるウランは輸入に依存しており、供給面でのリスクも無視できません。地政学的な影響を受けやすい資源であるため、エネルギー安全保障の観点からも、日本において原発は決して安定的な電源とは言えません。特に、1か所に1炉しか稼働させない場合のコストは、より高くなるそうです(図1)。

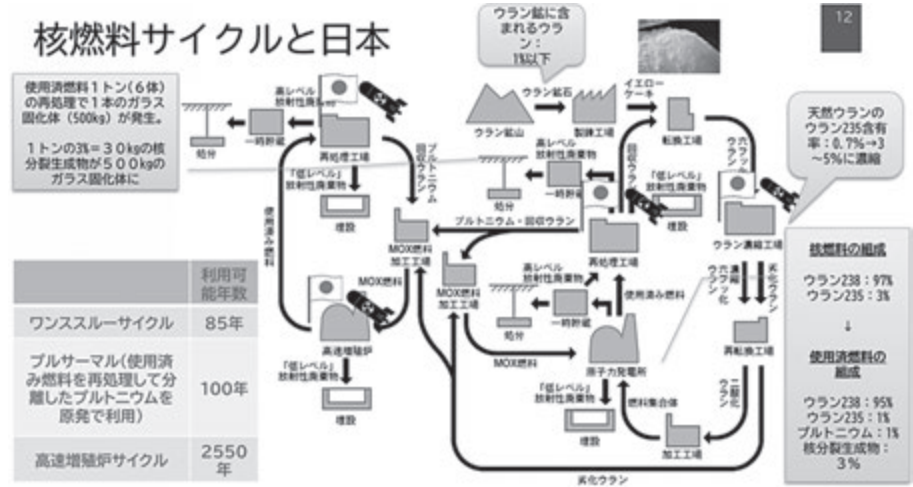


(図1) 新設の風力、太陽光、原子力のLCOE基準値(発電にかかるコストを明示するための指標) プルームバークNEFより出展

国内に2万トン以上の使用済核燃料

日本国内にはすでに2万トン以上の使用済核燃料が散在し、これを最終的に処分する方法は確立されていません。高レベル放射性廃棄物の処理には数万年という時間が必要であり、次世代へ負担を押し付ける形となっています。地層処分がもっとも有力な方法とされていますが、地震の多い日本では適切な処分場を見つけるのが困難です。現在でも最終処分地の選定は難航しており、政府や電力会社は明確な解決策を提示できていません。

日本は1993年に、青森県に六ヶ所再処理工場建設の着工を始め、使用済核燃料を再処理し、プルトニウムを抽出する「核燃料サイクル」を推進してきましたが、技術的な問題やコスト増大により竣工が大幅に遅れています。再処理によって新たな核廃棄物が発生し、処理の問題がさらに複雑化することにも指摘されています。加えて、再処理によって抽出されたプルトニウムは核兵器の原料にもなり得るため、核不拡散の観点からも、再処理政策は見直されるべきです。



(図2) 松久保 肇 氏 (NPO法人原子力資料情報室・事務局長) 阻止ネット主催 学習会資料より

まず原発を止めること

福島第一原発の廃炉作業は、現在も多くの困難に直面しています。汚染水の処理、デブリ(溶融燃料)の取り出し、高レベル放射性廃棄物の管理など、解決すべき課題は山積みで、廃炉作業は少なくとも30〜40年かかると見込まれており、その間に発生する膨大な量の核廃棄物の処理方法も決まっています。

これ以上核廃棄物を増やさないよう、まず原発を止めることが不可欠です。現在稼働している原発はすべて停止し、新規の原発建設も中止しなければなりません。福島第一原発事故の教訓を生かし、原発依存から脱却する方向へ舵を切るべきです。

終戦80年を迎える日本のエネルギー政策

戦後80年を迎えるにあたり、日本は平和国家としての姿勢を改めて示す必要があります。原発は、軍事利用と切り離せない技術であり、その存在自体が核のリスクを高める要因となっています。核兵器廃絶を訴える日本が、国内で核関連技術を維持することは矛盾しています。原発を廃止し、再生可能エネルギーへ移行することは、日本が「核のない世界」を目指す平和運動の一環にもなります。持続可能なエネルギー政策をすすめることで、核の脅威に頼らない未来を実現できるのでは



(図3) 松久保 肇 氏 (NPO法人原子力資料情報室・事務局長) 阻止ネット主催 学習会資料より

ないでしょうか。日本は、再生可能エネルギー設備の発電能力は世界第6位の139ギガワットありますが、発電量に占める再生可能エネルギーの比率は約22%と低いのが現状です。太陽光、風力、地熱、水力など、多様なエネルギー資源を活用することで、原発に頼らない電力供給が可能になります。特に、近年の技術革新により、再生可能エネルギーのコストが下がり、安定供給のための蓄電技術も進化しています。また、省エネルギーの推進や電力の効率的な使用によって、電力需要そのものを減らすことも重要です。省エネ技術の導入や電力消費の最適化によって、原発に依存しない持続可能な社会を実現させましょう。再生可能エネルギー100%供給を目指し、省エネルギーの推進を呼びかける「生活クラブでんき」を利用することも発電構成を変える手段の1つです。



第10回
理事会報告 <4月2日>

【2月度決算報告】

- 供給高 2億5,211万円(前年同月比110.6%)
※配達日数は1日多い
- 組合員数 18,641名(前月比△21名)
- 一人当たりの出資金 93,751円

【3月の放射能検査結果】

3月は連合消費材567検体の放射能検査を実施。エスコープ大阪供給分で生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①生活クラブ滋賀への新DC建設分担金貸付について
- ②最低賃金変更に伴うエスコープ大阪サポートセンター非常勤の賃金改定
- ③河内長野支所電話受付業務委託契約の締結

【協議事項】

- ①2025年度予算について
- ②2025年度総代会議案書の提案・意見集約について
- ③エスコープまつり2025
- ④8月平和イベント
- ⑤南河内地域の企画実施について
- ⑥立川有機米研究会交流検討産地訪問のまとめ
- ⑦1月統一企画 新規加入者対象「グリーンキャンペーン」のまとめ
- ⑧第17回ワーカーズ・コレクティブ全国大会 in Tokyoへの参加
- ⑨「10月統一取り組み共済」のまとめ
- ⑩2024年度サークル活動報告及び2025年度上期サークル活動計画について
- ⑪ATJ「ガザ地区の恒久的停戦とパレスチナの和平を求める声明」への団体賛同について

【報告承認事項】

- ①税務顧問宗氏との確認書の取り交わしについて
- ②連合米についての報告



第11回
臨時理事会報告 <4月23日>

【決議事項】

- ①第36回生活クラブ連合会・第16回生活クラブ共済連通常総会代議員の選出
- ②2025年地連運営委員の改選に伴う運営委員推薦(大阪府連推薦枠)
- ③株式会社ウインナークラブの役員候補者の選出について

【協議事項】

- ①2025年度エスコープ大阪総代会議案書の確認
- ②7月理事会日程の変更
- ③2025年度関西の畜産生産者訪問の計画
- ④立川有機米研究会のまつり参加依頼について
- ⑤セット野菜の全地域統一取り組み(5～7月)
- ⑥せつけん運動ネットワーク第11回定期総会への出席
- ⑦2024年度剰余金処分案について
- ⑧ふらっとスペース金剛のまつりへの参加依頼について

編集後記

2011年に起きた福島第一原子力発電所事故は大規模な放射性物質の放出、環境汚染、そして人的被害を引き起こしました。一度はすべて停止した原子力発電所ですが、2025年4月時点で12基が稼働しています。私たちが安心して暮らしていくために、これから生きていく未来の人たちが幸せに暮らしていくために、今、私たちがどのような行動をとるべきか、多くの人に伝えていきたいと思ひます。(Y)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪
〒590-0151 堺市南区小代727
TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022
<https://s-osaka.seikatsuclub.coop/>



ワーカーズ・コレクティブ紹介

～誰もが安心して自分らしく暮らせる地域をめざして～

誰もが安心して自分らしく暮らせる地域を実現するには、地域で活動する団体との連帯は欠かせません。そこで、隔月で、エスコープ大阪関連のワーカーズ・コレクティブ(以下、ワーカーズ)に登場していただき、抱負などを語っていただきます。

ワーカーズ・コレクティブ ふろんと

(堺市南区)

29年前、エスコープ大阪から「ワーカーズ・コレクティブ近畿連絡会」(現・関西ワーカーズ・コレクティブ連合会)に電話受付の業務委託の話があり、「ワーカーズSTEP」が個人配達をしながら、電話受付業務を受けることになりました。その後、ワーカーズ・コレクティブ近畿連絡会が解散し、委託契約は終了しましたが、メンバー各自がエスコープ大阪のパートとして再契約してSTEP以外の方も増員し、業務を継続しました。生協の直接雇用ということで福利厚生が整っているというメリットがありましたが、生協には定年があり、せつかく築いた経験を長く活かしていくことができません。働き方を自分たちで決めることができるワーカーズを再度選択し、2016年4月にワ

カーズ・コレクティブ「ふろんと」(以下、ふろんと)を設立しました。ふろんとは、エスコープ大阪の本部内で電話の対応をしています。業務の取り次ぎや組合員からの注文、「よやく」の変更、苦情や要望など、週に400件ほどの電話を受けています。時には、「この消費材はどうやって食べるの?」などの問い合わせもあり、主婦としての経験も活かしつつ、消費材の知識を持つようにして多種多様な問い合わせに対応しています。また、この頃は高齢の組合員から、配達日でない日に「配達がない」という問い合わせを受けたり、ご家族の方から脱退の連絡をいただくこともあります。

現在、ふろんとは60代と70代の5名のメンバーで働いています。今の悩みは、後継者がいないことです。電話受付業務に就くためには生協の仕組みや消費材の理解が求められるので養成期間が必要です。次の世代に引き継ぎたいと思います。収入を得るためにまとまった時間を働きたいという人が増えているため、私たちの働き方が合っていないと思われるようです。しかし、ワーカーズは働き方を自分たちで決め、地域貢献につながることもできる働き方です。「関西ワーカーズ・コレクティブ連合会」の仲間とワーカーズの働き方を広めて、ぜひ次世代にワーカーズをつないでいきたいと思っています。これからの人たちの新たな登場を応援していきます。



ワーカーズ・コレクティブふろんとの皆さん

ワーカーズ・コレクティブという働き方を選択

29年前、エスコープ大阪から「ワーカーズ・コレクティブ近畿連絡会」(現・関西ワーカーズ・コレクティブ連合会)に電話受付の業務委託の話があり、「ワーカーズSTEP」が個人配達をしながら、電話受付業務を受けることになりました。その後、ワーカーズ・コレクティブ近畿連絡会が解散し、委託契約は終了しましたが、メンバー各自がエスコープ大阪のパートとして再契約してSTEP以外の方も増員し、業務を継続しました。生協の直接雇用ということで福利厚生が整っているというメリットがありましたが、生協には定年があり、せつかく築いた経験を長く活かしていくことができません。働き方を自分たちで決めることができるワーカーズを再度選択し、2016年4月にワ

カーズ・コレクティブ「ふろんと」(以下、ふろんと)を設立しました。ふろんとは、エスコープ大阪の本部内で電話の対応をしています。業務の取り次ぎや組合員からの注文、「よやく」の変更、苦情や要望など、週に400件ほどの電話を受けています。時には、「この消費材はどうやって食べるの?」などの問い合わせもあり、主婦としての経験も活かしつつ、消費材の知識を持つようにして多種多様な問い合わせに対応しています。また、この頃は高齢の組合員から、配達日でない日に「配達がない」という問い合わせを受けたり、ご家族の方から脱退の連絡をいただくこともあります。

現在、ふろんとは60代と70代の5名のメンバーで働いています。今の悩みは、後継者がいないことです。電話受付業務に就くためには生協の仕組みや消費材の理解が求められるので養成期間が必要です。次の世代に引き継ぎたいと思います。収入を得るためにまとまった時間を働きたいという人が増えているため、私たちの働き方が合っていないと思われるようです。しかし、ワーカーズは働き方を自分たちで決め、地域貢献につながることもできる働き方です。「関西ワーカーズ・コレクティブ連合会」の仲間とワーカーズの働き方を広めて、ぜひ次世代にワーカーズをつないでいきたいと思っています。これからの人たちの新たな登場を応援していきます。

おたよりネット



「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

265号を読んで

泉北ニュータウン地域 Kさん

記事全体を通して、安心安全な消費材のみを取り扱っているということを改めて感じる事ができました。もっともっと周りのお友達にエスコープ大阪の存在を知って

もらいたいです。口から入れるものが脳をつくり、身体をつくり、生きる命に直結していることをもっと私たち若い世代は知るべきだと思いました。

キリトリ

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
268号(2025.5.26)